

講義コード	515102003	
講義名	図画工作III EF	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	前期	
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日	水曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択必修	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
専任教員	花田 千絵	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし

## 授業の概要

### 授業の概要

幼児造形指導について学び、指導計画を立てるを身に付けることと、立体造形表現についての基礎を学び、作品へ発展させ、幼児への指導方法を学ぶことである。

### 授業の方法

#### ①プレゼンテーションの方法

配布印刷物と板書を活用し、場合によっては実演する。

#### ②授業形態

実技

#### ③アクティブラーニング

体験学習

#### ④課題に対するフィードバックの方法

確認テストの解説を行う。

### 授業計画

第1回 オリエンテーション、指導計画について

第2回 テーマからの発想（1）並べて作る

第3回 ○△□で何ができるかな

第4回 感触遊び

第5回 季節の製作 時計／歯磨き

第6回 小麦粉粘土作り

第7回 主活動実践報告、粘土造形の基本

第8回 土粘土（素材を知る）

第9回 表現と評価

第10回 土粘土（道具と基本の技法）

第11回 保育実習主活動の検討

第12回 油粘土（抽象形態）

第13回 テーマからの発想（3）夏の製作

第14回 パルプ粘土づくり

第15回 粘土についてまとめ

**授業の到達目標及びテーマ**

本授業の到達目標は、幼児造形表現の基礎的な知識技能を生かし、実践することを想定した指導計画を立てること、また、身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、立体素材の特性を理解し適切な用具を操作し造形することができることである。

本学の到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力が該当する。

本科目は、幼児教育科のディプロマポリシー「4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している。」と「5.音楽・図画工作・体育の実技と表現を身につけ、乳幼児に指導できる。」を達成するための科目である。

**授業計画表****授業時間外の学修**

実習に向けて日頃より子どもの造形に興味を持ち、材料を収集しておくことが望ましい。

事前に連絡する材料・道具を準備して授業に臨む。  
素材収集などの授業準備に20分かかると想定される。  
授業内で制作した作品課題はファイルに整理する。  
学習内容を復習する時間に25分かかると想定される。

**実務経験の有無****ディプロマポリシーとの関連**

①幼児教育者観	②知識・技能	③実践力と実務能力	④人間性と協調性
	○	○	

**ルーブリック**

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行っていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行っていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、助言・新たな資料提供等の支援を行っている
表現力	授業内容を100%理解しており、臨機応変な対応が出来、保育者に必要な表現力がより豊かに身につけていることが認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、保育者に必要な表現力が身につけていることが認められる	授業内容をほぼ70%程度理解しており、保育者に必要な表現力がやや身につけていることが認められる	授業内容の理解は65%以下と判断できるため、助言・新たな資料提供等の支援を行っている
製作などの	保育者として、状況に応じた遊びや製作の指導等	保育者として、遊びや製作の指導等の保	遊びや製作の指導等の保育実践に課題があり、課題解決への	遊びや製作の指導等の保育実践に課題があり、課題解

指導力	の保育実践ができる	育実践ができる	見通しがある	決への見通しが ない
実習への準備状況	授業内容を100%理解しており、実習に関して実情に応じた臨機応変な対応が出来、十分に準備が整っていることが認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、実習に関する準備が整っていることが認められる	授業内容をほぼ70%程度理解しており、実習に関する準備がやや整っていることが認められる	授業内容の理解は65%以下と判断できるため、助言・新たな資料提供等の支援を行っている

## 成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験		
小テスト等	30%	学習内容の理解度を確認する小テストを評価する
成果発表		
授業への貢献度		
レポート	40%	造形指導実践レポート、立体造形についてのレポートを評価する
その他	30%	授業で製作する作品を評価する

## 課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
掲示板等に正解と講評を掲載する 授業の中で解説、講評する その都度解説、講評する	掲示板等に正解と講評を掲載する	授業の中で解説、講評する その都度解説、講評する

## ICTを活用した双方向型授業の内容

クリッカー、アンケート、小テスト等 チャット 掲示板の活用
-------------------------------------

## アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60～100%程度のアクティブラーニングである
--------------------------------

## アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
発問の吟味・精選 プレゼンテーション コメントシートの活用	実験観察・実習	授業後レポート

小テストや授業内レポートの活用
<b>教科書</b>
樋口一成（編）「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材」萌文書林
<b>参考書</b>
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 授業中に適宜資料を配布する。
<b>SDGsとの関連</b>
4. 質の高い教育をみんなに
<b>特記事項等</b>
①実務経験のある教員 なし
②科目のナンバリング STE2303
③オンライン授業の実施方法 Teamsによる教材提供、小テスト、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。
<b>研究室（訪問先等）</b>
中央研究棟 2階 231 研究室 出講日（授業のある曜日）火・水・金
<b>電話番号</b>
028-667-7111（代）
<b>授業用E-mail</b>
<a href="mailto:hanada@sakushin-u.ac.jp">hanada@sakushin-u.ac.jp</a>
<b>成績評価法</b>
①試験 0% ②レポート 40%（造形指導実践レポート20%、立体造形についてのレポート20%で評価する。 ③平常点 60% 授業で製作する作品、学習内容の理解度を確認する小テストを評価する。 ④その他 0%